

## 平成26年度第3回北杜市図書館協議会会議録

- (1) 会議名：平成26年度第3回北杜市図書館協議会
- (2) 開催日時：平成26年10月28日（火）午後1時30分～午後3時45分
- (3) 開催場所：北杜市金田一春彦記念図書館 SVホール
- (4) 出席者： 協議委員 柴山 裕子／小澤 一／下條 順子／竹田 和美／須田由美子  
平出 香織／坂本 妙子／齊木 久壽  
事務局 三井図書館長／長谷川 誠・小野 まどか・  
植松 広樹（総務担当）／浅川 さつき（明野図書館）  
鈴木 真由美（すたま森の図書館）／長屋 恵（たかね図書館）  
高野 裕子（金田一春彦記念図書館）／進藤 由美子（小淵沢  
図書館）／鈴木 規（ライブラリーはくしゅう）／齊木 紀恵子  
（むかわ図書館）
- (5) 議題：
  - (1) 利用者懇談会の報告について
  - (2) 北杜市図書館開館時間等変更のスケジュールについて
  - (3) 平成27年度の事業並びに当初予算について
  - (4) 各図書館からの近況報告について
  - (5) その他
- (6) 公開・非公開の別：公開
- (7) 非公開の理由：該当なし
- (8) 傍聴人の数：0人
- (9) 審議内容
  - 1) 利用者懇談会の報告について
    - ・9月21日に須玉ふれあい館において阿刀田館長トークライブを開催し、これに合わせトークライブ終了後の3時40分から1時間程度開催した。
    - ・20名程度の方にご参加いただき、いくつかの貴重なご意見をいただいた。
    - ・絵本の書架について、ぎっしり詰まりすぎて、子どもが手に取りづらい。また、タイトルのアイウエオ順で並んでいる館が多いが、絵本を探しづらいという意見をいただいた。これについては、一部を平架に移動するなどして、書架に余裕を作るとともに、配架については多くの人に手にとってもらえるように工夫をしていきたいと回答している。
    - ・コミュニティとしての図書館のあり方について、子どもが少し騒いでも気兼ねなく図書館に来れるように、フリースペースを図書館に作ってもらいたいという意

見や、本年3月の元小布施町立図書館館長花井裕一郎さんの話を受けて改善した点はあるのかという質問があった。フリースペースについては館の施設状況などの関係ですぐに設置は難しい。図書館としては各館に飲食スペースを設けて、利用しやすくするなどの取り組みはしており、地域の人たちにもっと利用してもらえるようにしていきたいと回答している。

- ・購入した新刊図書の一覧がどこかで見られるようにしてもらいたいというご意見をいただいた。これについてはすでに年間ホームページでは見ることができるようになっている。年間8千冊以上の新刊を購入しており、紙媒体で全てを一覧にしようとするとうり大量になってしまうので、どのような形です出すのが分かりやすいか検討すると回答した。
- ・各館の図書収集テーマについては、もっと周知をしてほうがいいのではないかという意見と、テーマに関する本は大量に入ってくるが実際にはあまり利用されていないのではないか。動態を調べてテーマを再考してもいいのではないかという意見もあった。周知については、今年度からテーマに関するイベントを行うようにして、図書の利用を促していると回答した。また館によってはテーマが難しすぎるのではと思うので再考していきたいと回答している。

委員：各図書館の収集テーマについては、さまざまな場で意見が出ているが、動態の調査はいつ行う予定か？

事務局：今年度の中で各館のテーマに関する本がどれだけ利用があるかの調査を行っていききたい。

委員：トークライブについては、もう少し阿刀田館長の話を知りたいという印象であった。また参加者も多くはなく、もっと多くの人に来てもらい話を聞いてもらいたかった。

委員：機会があれば、もう一度阿刀田館長を呼んでもらい、もう少しゆっくりと話を聞ける場をつくってもらいたい。

## 2) 北杜市図書館開館時間等変更のスケジュールについて

### \*事務局より説明

- ・前回までの協議会において協議いただいた開館時間等の変更については、9月16日に定例教育委員会に諮り承認された。今後は、11月の例規審査委員会で承認されれば、教育委員会として告示をし、図書館としても周知をしていくことになる。図書館での周知の開始は11月終わりか、12月はじめごろからになると考えている。

委員：周知はどのようにしていくのか。

委員：教育委員会の告示行為行われたあと、ホームページや市の広報、各図書館での掲示などを通じて周知していく。

### 3) 平成27年度の事業並びに当初予算について

#### \*事務局より説明

##### 予算概要

- ・来年度の予算編成について財政当局から方針が出された。施設の維持管理に関わる経常経費については前年度（26年度）の98%以内、事業経費については前年度の95%以内に抑えることになっている。
- ・全体の方針を受けて図書館予算の方針は次のとおり。ただし、まだ財政当局との査定前であり、あくまでも予定である。
- ・開館時間の変更に伴いアルバイトの賃金を75万ほど減額。臨時職員の人件費については前年度と同額。
- ・資料費については、前年度と同額を確保する。
- ・新規事業については「金田一春彦・平山輝男アーカイブ視聴覚資料デジタル化事業」と「本の杜への招待状事業（仮）」を予定している。
- ・各館の事業については、開館時間の変更により、1日あたりの勤務人数が少なくなることから、事業全体を精査した（事業計画は別紙）。事業については図書館ボランティアと協同しながら開催の予定。教育センター等市他部署との共催については現在今後協議をする予定。
- ・名誉館長設置事業については、前年度と同じく特別枠で計上（シーリング対象外）

##### 新規事業

- ① 金田一春彦・平山輝男アーカイブ視聴覚資料デジタル化事業
  - ・金田一春彦記念図書館に所蔵している金田一春彦先生並びに平山輝男先生が全国各地で採録された方言の音声資料（カセットテープ・オープンリールテープ）840点をデジタル化することで、永年保存するとともにCD化し貸出できるようにし、貴重な資料の更なる活用を図る事業である。
  - ・総事業費は8,064千円を計上している。内訳はデジタル化業務委託8,000千円、データ登録作業賃金に64千円である。
  - ・事業実施期間は平成27年4月1日～平成29年3月31日までの2カ年を予定
- ② 本の杜への招待状（仮）事業
  - ・現在、少子化対策、子育て支援は市の最重要施策となっている。図書館と

しては、昨年3月に「北杜市子ども読書の杜プラン」を策定し、この中でも家庭での読書の推進をうたっており、図書館における子育て支援の一環として家庭での読書推進のため新規事業を行うものである。

- ・事業内容は次のとおりである。2歳児検診の会場において図書館利用のPRを行うとともに図書館への招待状を手渡す。各図書館で行うおはなし会の会場において、実際に読み聞かせを体験してもらったあと、いくつかの本のなかから1冊絵本をプレゼントする。また保護者を対象にした読み聞かせ用資料を紹介する展覧会と、読み聞かせや手遊びの講演会を行う。

委員：デジタル化の事業費の予算の出どころはあるのか。

事務局：8,064千円とかなり高額な予算となっており、市の単費で行うことは難しい。図書館振興財団で図書館にある貴重な資料のデジタル化への助成をしており、この助成金を活用してデジタル化事業を行いたいと考えている。助成金の申請は来年度

委員：大変貴重な資料財産である。市だけでなく、国や県とも協力して保存していくべきものではないか。国や県からの補助なども活用していけないか。

事務局：現在、国や県からの補助金はこうしたソフト事業に使えるものが少なくなっている現状があるが、使えるものがあるかどうか再度研究してみる。

委員：さまざまな方法を検討し、なるべくお金をかけずに保存できるようなやり方でやっていただきたい。

委員：こうした資料をアピールしてきたことはあるのか。これまでこうした資料を利用したいという問い合わせなどはあったのか。

事務局：音声資料があること自体は、パンフレットなどでもPRはしているが、これまでは貸出ができる状態ではなかったので積極的にPRをしてきたわけではない。一方、金田一図書館でこうした貴重な資料を所蔵しているということは、方言研究者の間ではよく知られており、来年、日本方言研究会という方言研究者の研究会が100回を迎えるということで、日本の方言の研究史を展示するというので、金田一春彦先生の直筆資料や音声資料も展示したいというお話しがあるように、研究者の方からの問い合わせはこれまでも若干はいただいている。

委員：貴い資料であるが、これだけ多額の費用をかけるのであれば、デジタル化された際にはしっかりとPRを行い、活用がなされるようにしていただきたい。

委員：本の杜への招待状については、セカンドブックに代わるものなのと考え

てよいか。

事務局：単なるセカンドブックの代わりということではなく、図書館に足を運んでもらい本に親んでもらう機会を作ることで、図書館の利用促進を図る事業である。

委員：この事業は図書館職員だけで行うのか、それとも図書館ボランティアに関わってもらって行うのか。

委員：今各館で行っているおはなし会で絵本を渡すということがひっかかる。おはなし会自体は2歳児に限らず未就学児を対象にしている場合が多い。現状行われているおはなし会で絵本を渡すとなると、2歳児以外子どもは絵本がもらえず不公平な思いをしてしまうのではないかと感じる。また職員だけで行っているおはなし会もあれば、ボランティアが関わっているお話し会もあり、運営も内容も違う中で、この新規事業を各館同じようにやれるのか危惧も感じる。お話し会の持ち方、絵本の渡し方はもう少し検討する必要があるのではないかと感じる。

事務局：確かに現行のおはなし会で2歳児の子どもに絵本を渡すとならぬ子が出てしまうので、どのように渡していくのか具体的には図書館内で検討をしていく。

北杜市としては少子化、定住促進というのが大きなテーマとなっており、図書館としてどのような形で子育て支援ができるのか検討するなかで出てきた新規事業である。絵本をプレゼントすること自体が目的ではなく、まず図書館に足を運んでもらい、絵本の読み聞かせを体験してもらうことで絵本の読み聞かせを通じた親子の触れ合いがとてもよいものだと感じてもらうことを主な目的と考えている。

おはなし会については現行のおはなし会でやる方法の他に、2歳児のみ対象のおはなし会を月1回どこかの館で行う方法もあると考えている。今後検討をしていきたい。

次長：今日の予算概要については、まだ財政当局との査定も済んでいないものであり、確定ではない。本の杜への招待状事業については、目的や方法などもっと明確にしていかないと財政当局などの理解は得られないかと思うので、もう少し練る必要がある。

委員：やり方などの課題はあるとしても、とてもいい事業であると感じる。子どもは図書館に来たくても自分だけでは来ることができない。必ず親が連れてこなければならぬので、親へのアプローチが必要であると常々感じていたが、そうした親へのアプローチを試みた取り組みだと感じる。それからこの本の杜への招待状事業はコミュニティとしての図書館というテーマに対しての核ともなるような事業ではないかと思えます。ぜひ

予算の確保をしてもらいたい。

委員：選ぶ絵本はいくつか種類があるかと思うが、人気の本に集中してしまい偏りが出ることはないか。

事務局：年度初めに全て購入するのではなく、様子を見ながら人気のある本を買い足していくようにするので、偏りが出ても特に問題にはならないと考えている。

委員：方法をもう少し検討をしてもらい、目的と効果を明確にし、予算確保に努めてもらいたい。

#### 事業計画

- ・来年度開館時間の変更に伴い事業を見直し削減したものもあるが、大方今年度と同じ内容である。
- ・全体事業についても、ことばの学校、ブックスタート事業、セカンドブック、サードブック事業、大人のための朗読会やまびこも行っていく。セカンドブック、サードブックについては、絵本のプレゼントはせず、おススメ本のリスト等を配る。
- ・こども図書館まつり
- ・名誉館長の講座「土曜ことば楽」については、金田一図書館と他の館への出張講座というかたちで行っていきたいと考えているが、回数などについては真澄先生と協議の上決めていきたい。
- ・新規事業については先ほど説明したとおり。
- ・各館の事業については、これまでも図書館ボランティアの協力をいただきながら行ってきており、来年度についてもさまざま形で協力をいただくなかで事業を行っていききたい。
- ・また、イベントによっては、ボランティアが主体的に行っていただき、図書館では共催という形で関わっているイベントや、有志の方で実行委員会を作り、地域委員会などの予算を活用して行っているイベントもある。また教育センター、環境課など市の他部署とも連携しながら、多くの事業を行っていく予定である。
- ・小淵沢図書館では、リニューアル記念として5月にイベントを開催予定。
- ・クリスマスのおはなし会など、同じ時期に同じような内容で行っているイベントもあるので、各館で協力して開催できないか、キャラバン隊を組んでまわっていくような形はできないかなど検討をしている。

委員：ことばの学校については、来年度どのようにしていくのか。

事務局：まだ日程や内容などは未定であるが、補助金については減額されていく方

向であることは伝えてあり、その中で何ができるか、何をやっていくか検討をしてもらっている。1月の実行委員会から具体的には来年度の内容等を決めていく予定である。

委員：当日の参加者が会場で作った方言川柳の優秀句を発表し、講評する2校時の授業については、選者の先生の評にがっかりした場面もあった。

委員：土曜ことば楽は金田一図書館で4回、他館で4回行う予定になっており、回数が多いので、いつもやっているような印象であり、逆に人の関心をひかないのではないか。

事務局：今年度については、金田一図書館で4回行い、同じ内容を他館で時期をずらして行っているが、どうしても先に金田一図書館で行っているため、他館での開催の時には参加者が集まりにくい現状がある。それでも高根30人以上、むかわでも20人以上の参加があった。なかには金田一図書館での会に都合で参加できなかったが、他館での開催があったので参加できたという方もいた。

金田一家の方々のことも大泉の方はよく知っているが、他の地域の方はそれほど知られていない。出張講座を行うことで、市内のさまざまな地域の方々に先生の話しを聞いてもらう機会を作ることができていると考えている。

委員：土曜日に固定してしまうと、土曜日の都合が悪い人は、ずっと参加できないことになってしまう。金田一図書館で土曜日でやるならば他館では別の曜日にやってもいいのではないか。

事務局：土曜日に固定したのは、先生の日程の都合もあるが、曜日を固定し、講座名に曜日を入れることでの訴求効果をねらったものであるが、来年度については検討していきたい。

委員：来た方たちに次回は何をききたいかなどのアンケートをとっているのか。

事務局：アンケートは毎回とっている。先生にもみていただき、来年度以降の内容の参考にさせていただいている。

委員：やる回数や会場など来年度に向けて検討をしてもらいたい。

#### 4) 各図書館からの報告について

##### ●全体

- ・8月にはことばの学校、9月には阿刀田館長トークライブ&利用者懇談会を開催。
- ・9月26日には急遽であったが、図書館ボランティアや各学校での朝読のボランティアの方々が読み聞かせにするのにオススメの大型絵本やパネルシアターなどを各館から持ち寄って紹介する「北杜市図書館読み聞かせフェア」を開催した。

- ・11月には市制10周年を記念して蕨内正幸原画展を開催する。
- ・また11月22日、23日には実行委員会で準備をすすめてきた映画「じんじん」の上映会を開催する。

#### ●明野図書館

- ・7月には明野図書館ファンクラブ主催の「ハートフルストーリーと料理」や「わくわくどきどきおはなし広場」で人形劇などのイベントを開催。8月には子供向けの環境教室ややまなし子ども文化研究会による人形劇を行った。10月にはハロウィンパーティを開催した。
- ・明野図書館ファンクラブ主催で11月には「古屋和子ひとり語り」を1月には「ブックカフェ」を開催予定。12月にはクリスマス会、1月にはお正月遊びとおはなし会を開催予定。

#### ●すたま森の図書館

- ・7月には「読書感想文応援塾」、8月には「美文字教室」、「農の学校」を開催した。
- ・「美文字教室」は、4回連続講座となっており、11月に開催する文化祭への出品を目指す。
- ・「農の学校」は今年から開催の講座。有機農家の畑山さんに講師となっていただき冬野菜の作り方を学ぶ。2月、3月にも講座を開催。10月の甲斐源氏祭りでは森としょマルシェと題して、講師他の有機野菜を委託販売した。

#### ●たかね図書館

- ・7月には「戦争の傷跡展」、8月には「こわいおはなし会」、「被爆者の証言」を行った。
- ・10月には、高根町内の小中学校と協力し「うちどくポストカード展示」を行った。これは、家で読んだ本の感想や意見を書いてもらった大きなポストカードの展示を行ったもの。
- ・11月には絵本セラピー講座、12月にはクリスマスお楽しみ会を開催する。

#### ●ながさか図書館

- ・「読書会」を毎月開催。
- ・7月に「子ども工作教室」、8月には「大人のための朗読会」、10月には「大人のための教養講座」を開催した。
- ・また10月～11月は、町内の小中学校・高校で出張ブックトークを行った。これはながさか図書館と町内の学校司書の先生を中心に、他館の職員にも応援してもらい町内の全ての学校で行っている。
- ・12月には長坂町内の中学生・高校生によるビブリオバトルを始めて開催する。



●金田一春彦記念図書館

- ・7月に「いずみの杜まつり」、8月には「終戦特集」、10月には「大人のための絵本サロン」、「秋のおはなし広場」を開催した。
- ・11月には藪内正幸原画展に合わせ、藪内竜太さんによる「ギャラリートーク」、五緒川氏による「方言講座」、12月には「大人の学習講座」、1月には「新春お茶会」を開催予定。

●小淵沢図書館

- ・8月1日には帝京短大を会場に「真夏の夜のおばけ話」を開催した。

●ライブラリーはくしゅう

- ・7月に手作り絵本教室を行い、10月からは参加者が作った絵本の展示を行っている。
- ・7月27日には富士山科学研究所の研究員を招いて「おいしい水のひみつ」を開催した。
- ・11月、12月には甲州弁ワークショップやクリスマス会、1月には新春お楽しみ会を開催予定。

●むかわ図書館

- ・7月には「桜に関する講演会」、8月には「夏休み工作教室」、10月には「ハロウィンフェスティバル in むかわ」をむかわ図書館活性化会議と共催で開催した。
- ・12月にはクリスマス会を児童館と共催で開催する。

委員：ながさか図書館で開催予定のビブリオバトルとはどのようなものか。

事務局：参加者がおススメの本を持ってきてもらい、5分の制限時間のなかでその本の紹介をし、聞いている人たちが一番読みたいと思った本に投票し、対決するもの。

委員：かなり高度なもののような気がするが、中学生でもできるのか。

事務局：もともとは大学生から始まったものだが、すでに甲陵中学でも授業で取り入れているように、子どもは子どものことばで紹介すればよいので、中学生でも十分にできると考えている。

委員：クリスマス会のように似たイベントを合同開催にするのも一つのやり方だが、結局は親が連れて行かないといけないので場所が遠くなると連れて行く親が大変になるのではないか。

事務局：今のところ合同でまとめてしまってもどちらかのイベントを廃止することは考えていない。キャラバン隊などを組んだり、準備を一緒にして手間を少なくするなどして、効率的に行えるように検討しているところである。

委員：蕨内さんの原画展に合わせて、明野図書館と金田一図書館で蕨内竜太館長によるトークイベントがあるが、近い時期に同じような内容にならないのか

事務局：明野図書館では、蕨内正幸という人の生涯や動物に対する思いを語ってもらう。金田一図書館では、絵が数多く展示されるので、実際の絵を観ながら蕨内さんの絵の特徴などを語ってもらうので、内容的には違うものになる。

委員：8月には多くの図書館で戦争に関するイベントや展示を行っているが、やり方を検討してもらいたい。

#### (6) その他

事務局：現在、図書館協議会には中央館の職員の他に各館の館責（館の責任者）8名が参加している。ただ、2名しかいない館もあるなかで、全ての館から館責が毎回集まることは各館への負担が大きいこともあり、館責の参加については代表の2～3名が持ち回りで参加する形に変更したいがいかがか。

また、現在学校図書館の司書の代表も協議会に参加しているが、図書館システムの導入、学校図書館との連携も一段落となりほとんど関係する議題もない状態であるので、毎回参加するのではなく、学校図書館に関する議事がある場合に参加してもらうようにしたいがいかがか。

委員：確かに職員数が少ない館から毎回出てくるのは大変だと思う。2名～3名の持ち回りにしてしまえば、館で大きなイベントがあり報告や周知をしたいときに出られないのもどうかなと思うので、持ち回りを原則としながらも、特別報告等したい館については館責が協議会に参加できるというのはどうか？また、一度も全員で会さないのもどうかなと思うので、4回のうちの年度初めか年度終わりのどちらかは全員参加するというのではどうか。

事務局：協議会の開催回数については、4回と定められてはいない。これまでは通例として4回行ってきているが、協議する内容が多ければ、もっと多く開催しなければならぬし、内容が少ないようであれば、回数を少なくすることも考えられる。

委員：回数が多ければそれだけ多くの意見も聞くことができる。回数については少なくするよりも多くする方向のほうが意見は出やすいと思う。開館時間の変更などの場合には、各館の人に出てもらわないと各館の現状が分からない場合がある。

次長：一概に何人がいいとはいえない問題ではないか。例えば建制順で明野とすたま2館のうちどちらかが出席するというにし、協議会の前には2館の館責が連絡を取り合い、出席しない館の活動状況なども把握しておき、協議会

で報告をし、また協議会の内容を出席していない館に伝えてもらうこともできるのではないかと。ここですぐ結論を出すよりも、委員さんの意見も聞きながら館責の方とももう少し検討をしたほうがいいのではないかと。

委員：館責の方はこの協議会に年に何回か出席をすることが本当に支障になっているのか知りたい。館責の皆さんが集まって状況を話してもらっていることで、図書館の実情を知ることができており、いろいろな面から見てもじっくり話し合いをしながら決めていったほうがいいと考える。

委員：他の市町村と違い、8つも図書館を抱え、それぞれが特色のある事業を行っている。職員も多いので、イベントなどでもどこの図書館の職員なのか分からない場合もある。こうして協議会のなかで館責の方と顔を合わせることで委員の私たちも各館に行きやすい面もあるし、人が分かっているから指摘もしやすい面もあるのではないかと。

事務局：もう一度館責と協議をして、今後の方向性を示していきたい。

委員：学校図書館司書については、これまでどおりオブザーバーのような立場でしてもらえればと思うが、毎回通知は出して、出席するかしないかは内容を見て司書の先生に決めていただくというのはどうか。

事務局：出席については司書の先生の判断にお任せするということでは、司書の先生が実際にどちらにすればいいのか困ってしまうのではないかと。

委員：毎月1回学校図書館の司書部会で、協議会の内容が報告されており、1名は参加してもらったほうがよいと思う。

司書：司書部会で公共図書館の協議会の内容の報告がされているようだが、学校図書館の状況が公共図書館には伝わってこない。この協議会の場で学校図書館の状況を報告してもらいたい。

委員：これまで各館から近況報告があったが、市内の学校図書館学校からの報告をもらうようにしたらどうか。ぜひ参加してもらうようお願いしてもらいたい。

事務局：了解した。

以上